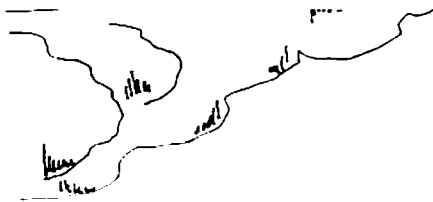


しごち

第 57 号

特集：三重県に関係した小
説・民話・短歌・俳句
に登場する鳥類



H20
3.16
k. Kitoyallca

2008 年 4 月 日本野鳥の会 三重県支部

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

特集 三重県に関係した小説・民話・短歌・俳句に登場する鳥類

編集部 近藤義孝

日本野鳥の会の創始者、中西悟堂は明治時代までの野鳥との関わりである「飼い鳥として籠の中の鳥の鳴き声や姿を楽しむ」か、「狩猟や食肉の対象」としてではなく、「野の鳥は野に」と提唱した。若いときから禅宗の僧侶として修行し、万物に命が宿るといふ仏教思想が彼の根底にあったことが大きく影響したと考えられる。

中西悟堂が富士山麓で1934年6月に催した野鳥観察会は野鳥研究家だけでなく、文人と呼ばれる文学者達も参加した。日本野鳥の会を発足させた理由の一つとして、文学の中で出てくる鳥の名前が間違っていたり、表現が不適切なことがあったためといわれている。

今回は特集として、三重県に関係した文学作品に登場する鳥類について紹介したい。



万葉集（759年ころ）

2805番目の歌

万葉集には50首近く鶴（たづ）が歌われている。この鶴はいったい何だったのだろうか？

（タンチョウ・ナベヅル・マナヅル・??）

ほかに万葉集には、鶴鳥（ぬえどり・トラツグミ）、鳩鳥（にほとり・カイツブリ）などいろいろな鳥が歌われている。

伊勢の海ゆ鳴き来る鶴の音どろも君が聞こさば
我れ恋ひめやも

御裳濯和歌集（1233年ころ）

御裳濯和歌集は四條天皇の御代天福元年の七月の半頃、寂延法師が編集した私撰の歌集である。そのなかに二見浦百首なども含まれ、西行法師、藤原定家なども登場する。

鶯が沢山歌われている。

梅の花に見られるのはメジロかもしれない？

二見百首歌ノ中ニ 権中納言定家

春キヌトカスムケシキヲシルヘニテコスヘニツ

タフ鶯ノコエ

伊勢ニタテマツリケル百首歌ノ中ニ

皇太后宮大夫

俊成

谷ヲイテハコハロタカクソウツルナル神チノ山
ノウクイスノコエ

題不知

西行法師

フルスウトクタニノウクイスナリハテハワレヤ
カハリテナカムトスラム

二見百首歌ノ中ニ

祐盛法師

梅花ハカセニハルヤヲシカラランアラヌコスエニ
ウクイスノナク

松尾芭蕉作（1600年代後半）

伊賀出身の芭蕉の句に閑古鳥（カッコウ）を詠んだ一句がある。京都嵯峨野で詠んでいるが、ふるさとで聞いていたかもしれない。

憂きわれをさびしがらせよ閑古鳥

滋賀県堅田で詠んだ句、病気になったのか群れからはずれていくガンと旅で寝込み夜を過ごす自分を詠んでいる。この雁はオオヒシクイか？

病雁の夜寒に落ちて旅寝哉

三重の民話

「鶴の恩がえし」桑名市

むかし、あるところに、情けぶかくて正直ものの、松樹という若い衆が住んでいました。

あるとき、山路を歩いて向うの畑へ行こうとすると、一羽の鶴が足に矢をさして、バタバタと苦しんでいるのを見つけました。

やれかわいそうにと思って、矢を抜きとり、鶴をいたわりながら、家へ抱いて来ました。そして、傷口を洗ったり薬をつけてやったりしました。

毎日、かいほうをつづけながら餌をあたえているうちに、だんだんたよくなって、山へ帰る日も近づいて来ました。松樹は、

「この家の近くには漁師がたくさんいるから、朝はやいうちに飛びたなくてはいけないよ」と鶴にいい聞かせていました。

鶴はいわれたとおりに、朝はやく籠の戸を開けて、ツルー、ツルーとなきながら天高く飛びたち、松樹の家の上を三回まわって、お礼をいって行きました。

それから幾日かたったある夕暮れ、松樹の家に一人の乙女がたずねて来ました。年は三五(十五歳)か二八(十六歳)か、世にも美しいあてやかな乙女です。

以下略

はなし 故 市川すず

「かっこう鳥」一志郡

むかし、むかしの話です。

あるところに、母と子供が二人で、山奥の一軒家で暮らしていました。

途中略

「むしろの上どころがって、背中をこすればよい」というのでした。

母は仕方なく、むしろの上にコロコロころがって、背中をこすりました。あんまり強くこすったので、背中に傷ができ、傷から毒がはいって、母はとうとう死んでしまいました。

子供は、

「ああ、あのとき背中をこすってあげさえすれば、こんな病気でしななくともよかったのに……」

といて、悲しみしました。

それからというものは、母が鳥になって、毎日毎日、飛んで来るのです。

子供が道を歩いていると、

「カッコ、カッコ」

と鳴いて、背中を飛び抜けます。

「ああ、死んだお母さんだ」

と思っていると、また、

「カッコ、カッコ」

と背中を横を通り抜けていきました。

子供は、カッコウ鳥が母の思いをこめて鳴いているのだ、ということを知りました。

はなし 故 崎かね

「つつ鳥の話」一志郡

むかし、むかしの話です。

あるところに、母と子がむつまじく、田畑を耕やして暮らしていました。

母はとかく病気がちで、寝たり起きたりの毎日でしたので、子供は困っていました。そして、とうとう母は死んでしまいました。

子供はお解き名越で、

「お母さん、お母さん、大豆の種はどこにしまっているのですか」

とたずねましたが、もう母は死んでしまっています。何の返事也没有せん。

家代々つたわった大豆の種が、どこにしまっているのかわからず、子供は困っていました。

ある日のこと、一羽の鳥が飛んで来て、

「つつ、つつ」

と鳴きながら、家の中にはいって来ました。そして、柱にかかっている袋のそばにとまりました。

「つつ、つつ」

としきりに鳴きます。

子供はさっそく袋を取りました。中には、さがしていた大豆の種がはいっていました。

「死んだお母さんが、種のあるのを教えに来てくれたのだ」

と子供は思いました。

この種をそっそく畑にまくと、みるみるうちに大きくなって、花をつけました。年々とれる大豆のおかげで、子供は一生栄えたということです。

はなし 故 崎かね

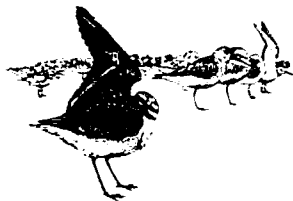
泉鏡花作「歌行燈」（1910年）

泉鏡花の代表作である「歌行燈」は桑名の宿とうどん屋で語られる話。この中に登場するお三重の悲しい身の上話に「千鳥も鳴く、私も泣く」

この千鳥はシロチドリか？

「いえ、私はな、やっぱりお伊勢なんですけれど、父さんが死くなりましてから、継母に売られて行きましたの。はじめに聞いた奉公とは嘘のように違います。—お客の言うことを聞かぬ言うて、陸で悪くば海で稼げって、岨の下の船着から、夜になると、男衆に捉えられて、小船に積まれて海へ出て、月があっても、島の蔭の暗い処を、危いなあ、ひやひやする、木の葉のように浮いて歩行いて、寂とした海の上で……悲しい唄を唄います。そしてお客の取れぬ時は、船頭衆の胸に響いて、女が恋しゅうなる禁厭じゃ、お茶挽いた罰、と云って、船から海へ、びしゃびしゃと追下ろして、汐の干た巖へ上げて、巖の裂目へ俯向けに口をつけさして、（こいし、こいし。）と呼ばせます。若い衆は舳に待ってて、声が切れると、榮螺の殻をびしびしと打着けますの。汐風が濡れて吹く、夏の夜でも寒いもの。……私のそれは、師走から、寒の中で、八百八島あると言う、どの島も皆白い。霜風が凍りついた、巖の角は針のような、あの、その上で、（こいし、こいし。）って、唇の、しびれるばかり泣いている。咽喉は裂け、舌は凍って、潮を浴びた裙から冷え通って、正体がなくなる処を、貝殻で引搔かれて、やっと船で正気が付くのは、灯もない、何の船やら、あの、まあ、鬼の支いた棒見のような帆柱の下から、皮の硬い大な手が出て、引掴んで抱込みます。

空には蒼い星ばかり、海の水は皆黒い。暗の夜の血の池に落ちたようで、ああ、生きているか……千鳥も鳴く、私も泣く。……お恥かしゅうござんす。」



梶井基次郎作「城のある町にて」（1925年）

松阪市を舞台にした小説

「かあかあ鳥が」はハシブトガラスか

国定教科書にあったのか小学唱歌にあったのか、少年の時に歌った歌の文句が憶い出された。その言葉には何のたくみも感ぜられなかったけれど、彼が少年だった時代、その歌によって抱いたしんに朗らかな新鮮な想像が、思いがけず彼の胸におし寄せた。

かあかあ鳥が鳴いてゆく、
お寺の屋根へ、お宮の森へ、
かあかあ鳥が鳴いてゆく。

それには画がついていた。

また「四方」とかいう題で、子供が朝日の方を向いて手を拡げている図などの記憶が、次つぎ憶い出されて来た。

横光利一作「鳥」（1930年）

伊賀市にある三重県立上野高等学校の前身、三重県第三中学校出身の横光利一は、伊賀市を舞台に「雪解」で彼自身の青春の恋心を描いた。この小説には算術の問題として鶴亀という言葉はあるが、鳥は登場しない。彼は「鳥」という小説を書いている。飛行機に乗って鳥になる。

二人は機体の中の傾いた席に並んで腰を降ろした。飛行場の黒い人々は私達二人の最後の姿を見るかのように、まだ開いているドアの口から中を覗き込んだ。私は一刻も早くこの地を離れたくてならない。過去へ向って手袋を投げつけたい。長い間の萎びた過去に。すると、いきなりドアが閉まった。もう良い、さらばだ。機体が滑走を始め出した。私は足のような車輪の円弧が地を蹴る刹那を今か今かと待ち構えた。と私の身体に、羽根が生えた。車輪が空間で廻り停った。見る間に森が縮み出し



た。家が落ち込んだ。畑が波のように足の裏で浮き始めた。私は鳥になったのだ。鳥に。私の羽根は山を叩く。羽根の下から潰れた半島が現われる。乾いた街が皮膚病のように痂み出す。私は過去をどこへ落して来たのであろう。雲と雲との中で扇のように廻っている光りばかりを追っ駆けながら、私は浮き続けているのである。

志賀直哉作「菟野」(1934年)

志賀直哉が湯の山温泉を描いた短編。ここで登場する群青や瑠璃とはオオルリと思われる。この「菟野」以外にも、この文庫本にはキジバトを描いた「山鳩」や「目白と鶉と蝙蝠」も収められている。

「ああ、あの鳥がきました」話の途中で女あるじは腰を浮し、その方を指した。窓の前へ差かけた大きい木の枝に美しい小鳥がとまっている。女あるじは何という鳥か知らないので、色から勝手に群青と云っているのだと云った。後日、京都の紫峰君に訊いたら「それは、瑠璃です。初夏にいい声で啼きます。その辺に居る筈です」と云っていた。

三島由紀夫作「潮騒」(1954年)

三島はトビをよく観察し、描写している。
鶉は断崖に群棲するということからウミウカ。

午後になると燈台のあたりは、没する日が東山に遮られて、翳った。明るい海の空に、鳶が舞っている。鳶は天の高みで、両翼をためすようにかわるがわる撓らせて、さて下降に移るかと思うと移らずに、急に空中で後ずさりをして、帆翔に移ったりした。

……

水平線上の雲には薄日が籠もっている。長い首を水面につきだして、二三の鶉が沖を泳いでいる。歌島のほうを見ると、南に面した断崖が、群棲する鶉の糞で、真白に染まっている。

参考文献・引用文献

万葉集

<http://www6.airnet.ne.jp/manyo/main/animal/birds.html>

御裳濯和歌集 国際日本文化研究センター和歌データベース

三重の民話 「日本の民話 13 京都・伊勢・志摩篇」ほるぷ 1975 (昭和 50) 年 2 月 25 日

城のある町にて 「檸檬・ある心の風景」旺文社文庫 1972 (昭和 47) 年 12 月 10 日初版

菟野 新潮文庫「灰色の月・万暦赤絵」1985 (昭和 60) 年 7 月 15 日 二十五刷

歌行燈：「泉鏡花集成 6」ちくま文庫、筑摩書房 1996 (平成 8) 年 3 月 21 日第 1 刷発行

鳥：「定本 横光利一全集 第三巻」河出書房新社 1981 (昭和 56) 年刊

潮騒：新潮文庫 昭和 54 年 12 月 4 日第 74 刷



目次

特集：野鳥の登場する小説・短歌・俳句……	1
三重中勢五主海岸野鳥調査……	5
表紙の言葉……	6
野鳥記録……	7
事務局だより……	9
三重県支部からのお願い……	11
探鳥会報告 ……	12
しろちどり 56 号の訂正……	17
チュウヒサミットのご案内……	17
編集後記……	17

三重中勢五主海岸水鳥調査

日本野鳥の会三重県支部

三重県支部は伊勢湾西岸の津市河芸町中の川から松阪市中ノ川までの海岸とそれに接する地域を保護すべき重要な地域と考え、ラムサール条約に登録すべき湿地であると認識している。

2008年3月2日にこの地域の水鳥の棲息数を調査した。この地域の海岸を5区画に分け、海岸から目視できる海上、および国道23号までの河口域を調査した。なお、安濃川河口右岸鰐崎海水浴場から雲出鋼管町までは除外した。調査は支部会員が行った。一群の個体数の多い群の場合は概数を記録した。

全体で49,979羽の水鳥が観察された。もっとも多かったのはスズガモであり、雲出川河口の海上で25,000羽、その他津市河芸町千里の養魚池、および安濃川河口の海上も含めて合計28,000羽あまりが観察された。その他ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロは各種1,000羽以上が観察された。カワウは984羽観察された。シギ・チドリ類ではハマシギがほぼ全域で観察され1,029羽（東アジア飛行ルート生息数の0.11%）であり、春の渡り個体か越冬個体と推定された。シロチドリは全域で観察されたが、79羽のみであり、かつて大群が越冬した頃から著しく減っていると想定される。サ

ギ類ではアオサギが65羽であった。カモメ類ではユリカモメ1,646羽、セグロカモメ781羽観察され、春の渡りの群と思われた。

貴重な鳥類としてはミヤコドリが安濃川河口で45羽（東アジア飛行ルート生息数の0.18%）、ズグロカモメは金剛川河口で16羽、その他も含め当海岸全体で21羽観察された。またワシカモメ、シロカモメも少数ながら観察された。ミュビシギは豊津浦・町屋浦で31羽（東アジア飛行ルート生息数の0.14%）が観察されたのみであるが、直前の2008年2月24日に行われた別の調査では234羽（東アジア飛行ルート生息数の1.06%）が観察されている。その他、ダイシャクシギが1羽、セイタカシギも2羽観察された。

支部としては今回初めてこの海岸を一斉に調査したが、貴重な記録が得られ、カモ類を主とした水鳥が単に多いだけでなく、貴重な種の棲息域としても重要であることが再認識された。

調査員（五十音順）石原 宏・大西幸江・岡八智子・小野新子・落合修・久住勝司・小坂里香・斉藤加代子・杉村滋弘・竹林 康・田中洋子・中川佐恵・中西 章・中村洋子・橋本富三・平井正志・山田昭子

（まとめ：平井正志）

三重中勢五主海岸水鳥調査(速報値) 日本野鳥の会三重県支部 2008年3月2日調査

調査場所	豊津浦・町屋浦	安濃川・志登茂川河口	五主海岸	阪内川河口	金剛川以南	合計
主調査員	平井正志	橋本富三	久住勝司	中西 章	小坂里香	
ハジロカイツブリ		5	54	1	2	62
カンムリカイツブリ			1		0	1
カイツブリ		2	7	5	6	20
カイツブリspp					2	2
カワウ	469	44	440	19	12	984
ダイサギ					1	1
コサギ	3	2			0	5
アオサギ	5	2	27	12	19	65
マガモ	82	133	1716	201	138	2270
カルガモ	18	89	9	62	35	213
コガモ	10	2	143	10	130	295
ヨシガモ			6	40	2	48

調査場所	豊津浦・町屋浦	安濃川・志登茂川河口	五主海岸	阪内川河口	金剛川以南	合計
オカヨシガモ		103	338	128	146	715
ヒドリガモ	19	261	2032	2027	404	4743
オナガガモ		309	1644	450	77	2480
ハシビロガモ	1	2	54	4	65	126
ホシハジロ	296	49	181		210	736
キンクロハジロ	150	55	966		410	1581
スズガモ	1500	1621	25286			28407
ホオジロガモ		18				18
ウミアイサ	1	10	50			61
カモ spp			2190		840	3030
オオバン		2	16		4	22
シロチドリ	15	1	13	5	45	79
ダイゼン	2	3				5
ケリ	2	3	5		1	11
タゲリ			6			6
ミヤコドリ		45				45
ハマシギ	209	135	261	4	420	1029
ミュビシギ	31					31
イソシギ	1	1	2	5	1	10
ダイシャクシギ				1		1
ツルシギ			4			4
タシギ	1		8			9
セイタカシギ					2	2
ユリカモメ	1010	233	21	50	332	1646
セグロカモメ	310	133	1	4	333	781
オオセグロカモメ					129	129
ワシカモメ					4	4
シロカモメ					2	2
カモメ				7	186	193
ウミネコ			1			1
ズグロカモメ	1		3	1	16	21
カモメ spp			85			85
水鳥合計						49979

表紙の言葉

オオタカは、自分の好きな鷹の一つです。気品があって、まるで騎士のようです。いつまでもオオタカが住める自然を残していかなければいけないですね。 北川和則（多気町）

野鳥記録(07年11月～2008年4月初めまでに報告のあったもの)

種名	観察日 (初認)	個 体 数	雌雄コメントな ど	観察場所	報告者	写 真 の 有 無
ヘラシギ	2007/9/9	1		津市町屋海岸	杉村 滋弘	○
コホオアカ	2007/10/31	1	第1回冬羽 県内 初記録か?	北牟婁郡紀北町船津	西 教生	○
コハクチョウ	2007/11/11	2	幼鳥	雲出川中流 香良洲大橋付近	岡 八智子	○
ホオジロハクセキレイ	2007/11/15	1		伊勢市有滝町	小坂 里香	○
ズグロカモメ	2007/11/15	6		松阪市金剛川・愛宕川河口	小坂 里香	○
カナダカモメ	2007/11/23	1	第3回冬羽	津市白塚海岸	安達 直孝	○
コノジロムシクイ (注1)	2007/11/28	1		四日市市北勢中央公園	山神 勝治	○
オオハクチョウ(注2)	2007/12/3	1	幼鳥	津市安濃川下流御山荘橋周辺	杉村 滋弘	
コハクチョウ	2007/12/16	5	成鳥2・幼鳥3	いなべ市大泉橋下流の員弁川	横山 真一	
コハクチョウ	2007/12/20	5	12/20と同一群	員弁郡東員町	横山 真一	○
ホオアカ	2007/12/21	1	雄。成鳥	松阪市五主町の田圃	久住 勝司	○
セッカ	2007/12/21	1	成鳥?	松阪市五主町の田圃。	久住 勝司	○
ミヤマガラス	2007/12/21	30+		明和町 斎宮歴史博物館付近	山崎 智	
アカアシシギ	2007/12/26	1	幼羽一第1回冬羽	松阪市曾原 曾原池	今井 光昌	○
ササゴイ	2008/1/1	1	成鳥	南牟婁郡御浜町上市木	中井 節二	
トモエガモ	2008/1/3	34		津市芸濃町横山池	平井 正志	
ハイロチュウヒ	2008/1/3	2	♀	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	○
ケアシノスリ	2008/1/5	8	幼鳥	桑名郡木曾岬町木曾岬干拓地	横山 真一	○
ケアシノスリ	2008/1/5	1		南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	○
ミヤコドリ	2008/1/8	42		津市安濃川河口	岡 八智子	○
ハイロチュウヒ	2008/1/8	1	成鳥雌	松阪市曾原	今井 光昌	○
ケアシノスリ	2008/1/9	1	成鳥雌	松阪市五主	今井 光昌	○
ワシカモメ	2008/1/10	1	成鳥	多気郡明和町 大淀海岸	岡 八智子	○
シロカモメ	2008/1/10	1	成鳥	伊勢市磯町 外城田川中流	岡 八智子	○
トモエガモ	2008/1/13	63	成鳥	津市須ヶ瀬地区 雲出川	久住 勝司	○
メジロガモ	2008/1/14	1	県内初記録か?	多気郡多気町丹生小寺池	北川 和則	○
ハマシギ(注3)	2008/1/14	1	フラッグ付き	津市安濃川河口南の海岸	田中 洋子	○
オオワシ	2008/1/15	2	成鳥	北牟婁郡紀北町海山町相賀	中井 節二	○
コサメビタキ	2008/1/15	1	幼鳥	津市 広明町 借楽公園	岡 八智子	○
シロカモメ	2008/1/15	1	幼鳥1年目	北牟婁郡紀北町海山町相賀	中井 節二	○
カワアイサ	2008/1/18	3	雄1 雌2	度会郡度会町鯉川橋上流	小坂 里香	
イワツバメ	2008/1/18	10+	越冬と思われる	多気郡多気町三ヶ野鶏舎上空	小坂 里香	

アカエリカイツブリ	2008/1/20	1	成鳥	熊野市木本町 海岸	清水 勝海	○
ハイロチュウヒ	2008/1/22	1	雌成鳥	度会郡度会町長原宮川左岸	小坂 里香	
マガン(カリガネ)(注4)	2008/2/8	8		鈴鹿市 御座ヶ池。	堤 薫	○
カナダカモメ	2008/2/12	1	第1回冬羽	津市町屋海岸	今井 光昌	○
ミミカイツブリ	2008/2/17	1		四日市市鈴鹿川河口	中井 節二	
ハイロチュウヒ	2008/2/17	1	雄成鳥	伊勢市小俣町宮川左岸中洲	小坂 里香	○
ムナグロ	2008/2/17	4		伊勢市御園町河川敷芝生	小坂 里香	○
ハイロチュウヒ	2008/2/18	1	雌成鳥	伊勢市小俣町宮川左岸中洲	小坂 里香	
ミヤコドリ	2008/2/19	45	従来の越冬数記録更新	津市 安濃川河口	岡 八智子	○
アメリカヒドリ	2008/2/20	1	雄成鳥	伊勢市御園町宮川右岸と河川敷	小坂 里香	○
ズグロカモメ(注5)	2008/2/23	14+		松阪市金剛川河口	小坂 里香	○
セイタカシギ	2008/2/23	2		松阪市愛宕川河口	小坂 里香	○
クイナ	2008/2/24	2	成鳥冬羽	松阪市曾原	今井 光昌	○
クイナ	2008/3/9	1		熊野市有馬町	中井 節二	○
ノビタキ	2008/3/9	1		熊野市有馬町	中井 節二	○
ミツユビカモメ	2008/3/9	1		鈴鹿市北若松	安達 直孝	○
ツバメ	2008/3/16	1	今期初認	松阪市庄町 楠田川	中西 章	
ハイロチュウヒ	2008/3/18	1	雌	伊勢市東豊浜町	小坂 里香	
サシバ	2008/3/30	1	今期初認	伊勢市藤里町・やすらぎ公園	小坂 里香	
ヒメウ	2008/4/5	1	伊勢湾内では希少	多気郡明和町川尻の海岸	安達 直孝	○
ノビタキ	2008/4/6	1	雄	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	
アリスイ	2008/4/6	1		南牟婁郡御浜町市木	中井 節二	○
カナダカモメ	2008/4/6	1	幼鳥(第1回冬羽)	津市白塚町町屋海岸	安達 直孝	○
クロツラヘラサギ	2008/4/6	1	成長 やや夏羽	松阪市愛宕川と金剛川の合流部	中西 章	○
ウズラ	2008/4/9	1		南牟婁郡御浜町市木	中井 節二	○
ツバメチドリ	2008/4/12	1		南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	○

今回の野鳥記録に関する補足説明 (保護部)

注1 : Sylvia 属には類似種があり同属の他種である可能性も否定できない。

注2 : 当初コハクチョウとして報告されたが別の会員の写真によりオオハクチョウと判明。2月11日までは観察記録あり

注3 : 山階鳥研から「フラッグの色等からベトナムで放鳥と思われる」との回答を得ているが、詳細はまだ不明

注4 : 2008年2月9日に報告者の堤氏から送られた写真でカリガネであると判断された。翌10日に支部会員が現地で、マガン2羽カリガネ7羽の合計9羽の群れと確認した。後日、ガンカモ調査(2008年1月13日)で市川雄二氏によりガン類として県に報告されていたものと判明した。なおこの群は3月23日まで同池に滞在した。

注5 : うち1羽(撮影写真あり)は韓国で2004年夏に山階鳥研所員らにより標識された個体。2005、2006年に撮影され多田弘一氏により、「しろちどり47号」に報告されている。2007年にも小坂撮影。今回の撮影で同一個体の5年連続越冬がほぼ確認された。



事務局だより

支部活動の記録（2008年1月～3月）

- 1/11 理事初会合
- 1/13 南勢地区会
- 1/13 「平成19年度ガン・カモ科鳥類及びカワウ一斉調査委託事業」の実施
- 2/22 「チュウヒサミット2008」の打ち合わせ
- 3/2 三重中勢五主海岸の水鳥調査の実施
- 3/9 2007年度第4回理事会の開催
- 3/10 「行事案内2008/4～2009/3」を送付
- 3/11 本部へ「珍鳥等の報道について」質問状を送付
- 3/28 「平成19年度県営事業（地震対策）環境調査その2委託」報告書の提出・検査
- 3/29 「平成19年度カワウねぐらコロニー調査事業委託」の実施・報告書の提出

● 今後の予定

- 4 決算作業・監査、各部の活動報告・活動計画まとめ
- 5/18 平成20年度総会

理事会報告

第4回（2008年3月9日13時～）出席者 11名 津市雲出市民センター

【事務局】

○来期の体制について

副支部長をおく。次回の総会で承認を得る。

副支部長候補：近藤 理事辞任：川口、山田、村田 理事新任候補：岡、小坂、田中

○今年度の決算について

決算報告（税金が発生した顔末を報告する）

○総会の運営（平井）5月18日（日）津市ヨットハーバー

定足数を満たすよう直前の働きかけを行う。委任状チェック体制をとる。

【保護部】

○野鳥記録とその発表について

◎支部の発表について

重要な記録については複数の支部会員（あるいは専門家）で確認。

発表は事務局あるいは理事+発見者が行う。すでに把握していたり、記録があつたりする場合があるので、支部として検討する。

データベースを作る必要がある。

◎会員個人の発表について（一律に規制はしない。）

a. 野鳥保護、周辺住民への影響を考慮して発表するように、b. 既に発見者が存在するかどうか？ c. また、以前の記録 については事務局に問い合わせるように支部報などで注意を促す。

○海岸保護について

祓川から中の川まで 「三重中勢五主海岸」と当面称して保護。
海のレジャーのいろいろな影響をマスコミなどに訴えていく事も検討する。
ラムサール条約登録運動については新年度総会で正式に議題とする。

○チュウヒサミットの進行状況

○春の渡り調査：鳥羽中心

鳥羽風力発電問題は、会社が代わって開発計画が続いている。
他、白猪山の風力発電計画（サシバの渡りの北ルート）が発表された。
度会町獅子が岳はアセス中。

【企画部】

○野鳥講座について

各地で講演会など実施する。わかりやすく親しみやすい内容にして、会員外の参加者を募り参加費の一部を講師謝礼に充当してはどうか。
決まり次第随時実施していく。広報はハガキDMなどその都度行う。

	取扱商品
	フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	取扱メーカー
	KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他
中部地区最大の光学製品専門店	
TELESCOPE CENTER EYEBELL	
テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)	
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119	
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00	
ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc	

野鳥の棲息についてのテレビや新聞などの報道は最近よく目立ちます。

一般の市民の皆さんに野鳥や自然環境への関心を持ってもらう上で、報道は重要で積極的な役割があるのですが、以下のような問題点もあります。

- 1) 報道により、野鳥観察者が集中し、野鳥の棲息に悪影響を及ぼす。
- 2) 同じく野鳥観察者の集中により、周辺住民に迷惑をかける。住民、土地所有者の所有物に被害をもたらす。
- 3) これまでの記録があるにもかかわらず、初記録として報道される。
- 4) 既に第一発見者がいるにもかかわらず、「〇〇氏が発見した」と報道される。
- 5) 野鳥についての記載（本来の棲息地、種名、亜種名、幼鳥成鳥の別など）が間違っている。

もともと、報道は記者の判断、報道機関の判断と責任で行うものであり、対応した通報者の意見や主張がそのまま反映されるものではありません。しかし、記者はほとんどの場合、野鳥に関して素人であり、明らかに通報者の思い違いであると推定される場合がこれまでありました。上記の3) および4) はよく見られます。この種の記事にはよほど大きな間違いのない限り、報道機関も訂正記事を掲載しません。間違った報道がそのまま確定してしまいます。むろん、我々支部の正式な発表は支部報であり、また学術的な報告は Strix や学術誌に掲載されるべきもので、新聞などの報告は正式なものとは認められません。

1)、及び2)の問題は現在ではとりわけ深刻です。報道によらないまでもインターネットで情報が流れ、同様な事態を招く例があります。1)についてはこれまでも影響が懸念される場合がありました。2)については野鳥を見る人全体、野鳥の会そのものへの評価を下げることになりかねません。

支部会員の皆さんに報道機関への通報にあたって次の事項を守っていただきたいと考えています。

- 1) 報道機関に通報する前に、通報および報道により、どのような影響がでるか予測し、通報すべきかどうか、判断し、悪い影響が大きいと想定できる場合には通報しない。
- 2) 報道機関に通報しよう判断した時、支部事務局へ連絡し、意見を聞く。

事務局はできるかぎり、現場でのトラブルの可能性の有無、上記の1) および2)、について判断し、意見を述べます。

支部の意見については様々なものが考えられます。個々に異なるものですが、a) 発表そのものを差し控える。b) 発表時期を遅らせる。c) 当該の場所を明確にしない。などが考えられます。

また事務局は3)、4)、5) すなわち、これまでの記録、第一発見者の有無、当該野鳥の記載正否についてもできる限り情報を集めて回答します。

報道機関への通報については支部の意見を参考にして最終判断してください。

またインターネット上のホームページ、掲示板、ブログへの掲載などの手段で不特定多数へ野鳥の情報を流す場合にも、上記のような問題点に注意をはらい、周囲への影響を考慮して対処してください。特に観察者が殺到すると思われるような野鳥を発見された場合は、支部へもご一報いただきますよう、お願いします。

探鳥会報告

2007年10月～2008年3月

●鳥羽・タカ渡り探鳥会

07年10月6日(土) 6:30～9:30

鳥羽市船津町行者山周辺

共催団体/鳥羽の自然と環境を守る会

林淳子 川村晴彦 参加者 28名(会員 20名 会員外 8名)

カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、サシバ、ハヤブサ、ヒクイナ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、イソヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、コジュケイ、ドバト。計 28 種

絶好のタカ渡り日和。タカ柱も度々観察され、サシバは 250 羽を数えました。風力発電建設予定のある行者山周辺での探鳥会。今秋も業者が調査をしているとの情報を得、支部も有志が連日調査を行っています。

●白塚・町屋海岸探鳥会

07年10月14日(日) 10:00～12:00

津市白塚町

石原宏 杉村滋弘 参加者 22名(会員 21名 会員外 1名)

カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ミサゴ、キジ、ミヤコドリ、シロチドリ(40)、ハマシギ、ミユビシギ(60)、セグロカモメ、ウミネコ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト。計 21 種

この探鳥会の最大のターゲットのミユビシギは若干時期的に遅く、数的には、約 60 羽の群れの観察にとどまった。しかし、当地では初めてと思われるミヤコドリとミサゴが飛来し、参加者には喜んでもらった。

探鳥会終了後に食事をしながら、交流会を実施したが、14人が参加し情報の交換をした。

●木曾岬干拓地探鳥会

07年10月28日(日) 9:00～12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 村田芳雄 参加者 21名

カイツブリ(20)、カワウ(400)、ダイサギ(5)、コサギ(8)、アオサギ(8)、マガモ(6)、カルガモ(100)、コガモ(200)、オカヨシガモ(4)、ヒドリガモ(3)、ミサゴ(3)、オオタカ(1)、ノスリ(3)、チュウヒ(1)、チョウゲンボウ(1)、キジ(8)、オオバン(1)、ケリ(1)、アオアシシギ(1)、クサシギ(3)、イソシギ(5)、ユリカモメ(1)、キジバト(10)、カワセミ(1)、ヒバリ(10)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(15)、ヒヨドリ(10)、モズ(7)、ジョウビタキ(2)、ノビタキ(8)、ウグイス(1)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(15)、スズメ(100)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(40)、ハシブトガラス(30)、ドバト(100)。計 39 種

チョウゲンボウのお迎えから始まり、オオタカの若鳥とカラスのモビング、今日は見られないかなといったら出てきたチュウヒなど、大サービスをしてもらった。

●松阪ベルファーム探鳥会

07年11月17日(土) 9:30～11:45

松阪市伊勢寺町

宮田たつ 水森和子 参加者 26名(会員 22名 会員外 4名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、キジ、オオバン、キジバト、カワセミ、コゲラ(声)、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス(声)、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 30 種

池にいるカモ類と公園にいる冬鳥を観察しました。カモ類はまだエクリプスの状態できれいな羽色はでていなかったが、26名の参加者と共にじっくり観察することが出来ました。また、ケーブルテレビの取材もありました。

●五十鈴公園と五十鈴川探鳥会

07年11月23日(金) 9:30~11:30

伊勢市宇治館町内

吉居瑞穂 竹林康 参加者 15名(会員12名
会員外3名)

カイツブリ(2)、カワウ(1)、コサギ(2)、アオサギ(2)、ヒドリガモ(2)、ミサゴ(1)、トビ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、オオバン(1)、イソシギ(2)、キジバト(2)、カワセミ(2)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(5)、ヒヨドリ(6)、モズ(2)、ジョウビタキ(1)、ウグイス(1)、ヤマガラ(4)、シジュウカラ(4)、メジロ(2)、ホオジロ(3)、アオジ(1)、カワラヒワ(8)、イカル(4)、スズメ(10)、ムクドリ(8)、ハシボソガラス(4)、ハシブトガラス(6)、ドバト(30)。計32種

今年は暖冬のため紅葉、落葉が遅い。そのため例年より冬鳥の到着が遅い。探鳥範囲を五十鈴川まで伸ばし、なんとか32種のウオッチングがあった。昨年はこの時期ツグミ等の確認があった。又来年この時期探鳥会をしたいと思います。地球温暖化の行く先は来年どうだろうか。

●伊賀森林公園探鳥会

07年11月25日(日)

伊賀市下友生

塗矢尋一 小林達也 参加者 11名(会員7名
会員外4名)

カイツブリ(2)、カワウ(6)、ゴイサギ(1)、ダイサギ(1)、アオサギ(1)、マガモ(10)、カルガモ(4)、オカヨシガモ(1)、ヒドリガモ(1)、キンクロハジロ(1)、トビ(2)、ノスリ(1)、キジバト(2)、カワセミ(1)、コゲラ(2)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(10)、モズ(2)、ジョウビタキ(6)、ツグミ(2)、ウグイス(1)、エナガ(4)、ヤマガラ(1)、シジュウカラ(4)、メジロ(4)、ホオジロ(6)、アオジ(1)、カワラヒワ(2)、ハシボソガラス(2)、ハシブトガラス(3)。計30種

鳥の種類が多くなってきた。

●木曾岬干拓地探鳥会

07年11月25日(日) 9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 村田芳雄 参加者 17名

カイツブリ(15)、カワウ(40)、ダイサギ(2)、コサギ(4)、アオサギ(3)、マガモ(4)、カルガモ(200)、コガモ(350)、オカヨシガモ(30)、ヒドリガモ(4)、ハシビロガモ(16)、ホシハジロ(12)、キンクロハジロ(47)、ミサゴ(6)、トビ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、チュウヒ(3)、チョウゲンボウ(1)、キジ(2)、ケリ(2)、アオアシシギ(1)、クサシギ(2)、イソシギ(2)、タシギ(1)、ユリカモメ(2)、キジバト(2)、カワセミ(1)、ヒバリ(5)、ハクセキレイ(11)、タヒバリ(2)、ヒヨドリ(10)、モズ(7)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(2)、ウグイス(2)、メジロ(3)、ホオジロ(5)、スズメ(100)、ムクドリ(100)、ハシボソガラス(100)、ハシブトガラス(5)、ドバト(10)。計43種

京都支部の支部長さんをはじめ5名の方が他支部の探鳥会を紹介する取材のために見えた。

チョウゲンボウが近くを飛んでくれたり、ミサゴ、チュウヒ、オオタカ、ノスリなど冬の鍋田・木曾岬干拓地を満喫できた。

●海蔵川探鳥会

07年12月11日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町海蔵川沿い

尾畑玲子 高 和義 参加者 8名(会員6名
会員外2名)

カイツブリ(4)、カワウ(3)、ダイサギ(1)、アオサギ(1)、カルガモ(29)、オオタカ(1)、ハイタカ(1)、バン(3)、キジバト(6)、カワセミ(2)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(3)、ヒヨドリ(2)、モズ(1)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(5)、ウグイス(2)、ホオジロ(5)、アオジ(2)、カワラヒワ(7)、スズメ(3)、ハシボソガラス(2)、ハシブトガラス(90)、ドバト(25)。計25種

集合場所で参加者がそろいのを待っている時に、ハイタカが現れた。その後探鳥をはじめると、今度はオオタカがドバトの群れに突入。皆があつと叫ぶほどの鋭い突っ込みののち、視界の届かないところに降りていった。もしかすると狩に成功したかもしれないが・・・? ドバトの災難は、もう一方では雨にも負けず参加した全員が満足できた一瞬でもあった。

●神路ダムオシドリ探鳥会

07年12月16日(日)9:15~11:30

志摩市磯部町恵利原

今村 禎 中村みつ子 参加者 20名(会員13名
会員外7名)

カイツブリ(2)、カワウ(3)、アオサギ(1)、
オシドリ(200~)、マガモ、カルガモ、ヨシガモ(10)、
オカヨシガモ、キンクロハジロ(10)、ミサゴ(1)、
トビ(2)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、コゲ
ラ(1)、ヒヨドリ、ジョウビタキ(1)、ウグイス(2)、
メジロ、カワラヒワ(1)、ハシブトガラス(2)。計
20種

天気にも恵まれ、目的のオシドリが休んでいる
様子や体色等、じっくり観察できた。また、100
羽以上が飛び立ち、目の前を飛ぶ様子に参加者一
同見入った。また終了間際にミサゴ、オオタカが
出現し参加者にとって満足感のある探鳥となっ
たと思う。

●安濃ダムオシドリ探鳥会

07年12月23日(日)10:00~12:00

津市芸濃町(安濃ダム・横山池)

平井正志 落合 修 参加者 14名(会員12名
会員外2名)

ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、オシドリ
(47)、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オ
カヨシガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ホシハジ
ロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、オオバ
ン、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、
ヒヨドリ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラ
ス。計23種

前日からの雨も上がり、良い天気になったが、
ダムサイトは風が強く、寒かった。参加者は多く
なかったが、安濃ダムではオシドリ47羽が見ら
れた。横山池では風もなく暖かく、カモの多さに
感激した。めずらしく、ミコアイサの♂とハジロ
カイツブリが見られた。残念ながら、期待したオ
オタカは現れなかった。探鳥会終了後、湖水荘で
津地区の交流会を持ち、次期の予定を決めた。

●木曾岬干拓地探鳥会

07年12月23日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 村田芳雄 参加者 18名

カイツブリ(15)、カワウ(500)、ダイサギ(4)、コサギ
(4)、アオサギ(4)、マガモ(30)、カルガモ(100)、コガ
モ(300)、オカヨシガモ(40)、ハシビロガモ(30)、ホ
シハジロ(6)、キンクロハジロ(8)、ミサゴ(8)、ハイ
タカ(1)、ノスリ(3)、チュウヒ(3)、チョウゲンボウ
(1)、キジ(11)、ケリ(2)、タゲリ(2)、ハマシギ(30)、ア
オアシギ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、ユリカ
モメ(6)、ウミネコ(2)、キジバト(10)、カワセミ(2)、
ヒバリ(10)、ハクセキレイ(8)、タヒバリ(10)、ヒヨ
ドリ(10)、モズ(4)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(3)、セ
ッカ(2)、ホオジロ(8)、オオジュリン(1)、カワラヒ
ワ(20)、スズメ(150)、ムクドリ(60)、ハシボソガラ
ス(50)、ハシブトガラス(10)、ドバト(20)。計44種

最初から、ハイタカが真正面で木に留まり、羽
を広げて手入れしている。となりの池を移動する
と、カラスとチュウヒが空中戦。移動の途中でチ
ョウゲンボウが何回も姿を見せてくれる。干拓地
の中には8羽のミサゴ、3羽のノスリ、2羽のチ
ュウヒ。雨上がりで風が弱く、暖かかったので、
水田の鳥もゆっくり観察できた。

●名張東山公園探鳥会

2008年1月27日(日)10:00~12:30

名張市桔梗が丘(東山公園)

田中豊成 小林達也 参加者 12名(会員7名
会員外5名)

コガモ、トビ、ノスリ、バン、オオバン、キジバ
ト、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズ
イ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、
ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジ
ロ、ホオジロ、ミヤマホオジロ、アオジ、スズメ、
ハシボソガラス、ハシブトガラス。計25種

冬鳥では、ノスリ、アオジ、コガモ、シロハラ、
ツグミ、ミヤマホオジロ、ジョウビタキが現れた。
エナガ、シジュウカラ、コゲラによる混群は2箇
所で見られ、里山での鳥たちの活動が観察できた。

●木曾岬干拓地探鳥会

2008年1月27日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 村田芳雄 参加者 35名

カイツブリ(8)、カワウ(20)、ダイサギ(3)、コサギ

(1)、アオサギ(6)、マガモ(20)、カルガモ(100)、コガモ(300)、オカヨシガモ(50)、ハシビロガモ(10)、ホシハジロ(12)、キンクロハジロ(10)、ミサゴ(6)、ケアシノスリ(5)、ノスリ(1)、チュウヒ(4)、チョウゲンボウ(1)、キジ(5)、ケリ(6)、タゲリ(4)、クサシギ(3)、タカブシギ(1)、イソシギ(5)、タシギ(3)、ユリカモメ(3)、キジバト(9)、カワセミ(3)、ヒバリ(7)、ハクセキレイ(15)、タヒバリ(8)、ヒヨドリ(10)、モズ(4)、ジョウビタキ(2)、ツグミ(10)、ウグイス(1)、シジュウカラ(4)、ホオジロ(15)、アオジ(2)、カワラヒワ(10)、スズメ(300)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(100)、ドバト(40)。計 44 種

木曾岬干拓地にやってきたケアシノスリが同時に 5 羽も見ることができ、チュウヒもハイイロチュウヒのような模様の大陸型が観察できました。参加者も 35 名と多く、沢山の人にいろいろ見てもらうことができました。

●上野城公園探鳥会

2008 年 2 月 10 日 (日) 10:00~12:00

伊賀市丸之内 (上野城公園)

前澤昭彦 田中豊成 参加者 8 名(会員 5 名 会員外 3 名)

マガモ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ツグミ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、イカル、シメ、ハシボソガラス、ドバト。計 19 種

昨日の大雪から一夜明けた残雪の公園での探鳥会。ビンズイがたくさん間近で観察できた。残念ながらアオバトを見つけることが出来なかった。名張市から参加してくれた小 3 年生の W 君の識別力に会員がびっくり。少人数でしたが楽しい半日でした。

●木曾三川探鳥会

2008 年 2 月 17 日 (日)

桑名市・愛西市

近藤義孝 村田芳雄

雪のため中止



●木曾岬干拓地探鳥会

2008 年 2 月 24 日 (日) 9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 村田芳雄

参加者 17 名

カワウ(30)、アオサギ(2)、マガモ(2)、カルガモ(20)、コガモ(150)、オカヨシガモ(60)、ハシビロガモ(15)、ホシハジロ(15)、キンクロハジロ(7)、ミサゴ(3)、トビ(1)、ケアシノスリ(3)、ノスリ(4)、ハイイロチュウヒ(1)、チュウヒ(2)、ハヤブサ(1)、チョウゲンボウ(1)、キジ(1)、ケリ(7)、タゲリ(5)、キジバト(5)、ヒバリ(10)、ハクセキレイ(5)、タヒバリ(20)、ヒヨドリ(22)、モズ(2)、ジョウビタキ(2)、ツグミ(30)、メジロ(2)、ホオジロ(10)、アオジ(1)、カワラヒワ(6)、スズメ(50)、ムクドリ(70)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(5)、ドバト(30)。37 種

三重県北部には積雪がありましたが、弥富市に入るとほとんどありませんでした。

ケアシノスリやハイイロチュウヒも飛んでいました。

●津・偕楽公園探鳥会

2008 年 3 月 2 日 (日) 10:00~12:00

津市偕楽公園

西浦克征 石原 宏 参加者 26 名(会員 21 名 会員外 5 名)

キジバト、アオバト、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 21 種

春のような陽気の中、2 班に分かれてのんびり鳥見を楽しんでいただきました。鳥の嘴の形と食べ物との関係など、鳥を楽しく見る上での参考になる話もしながら見ていただいた。公園内は花見の季節を前に落葉も殆どないほどきれいに掃除がされていて、ツグミ類の姿は少なかったが、ルリビタキの雄雌、ヤマガラの巣への出入り、シメの群れ、そしてアオバトなども観察できて喜んでいただいたようです。

●石垣池探鳥会

2008年3月2日(日) 10:00~12:00

鈴鹿市西玉垣町

市川雄二 市川美代子 参加者 26名(会員9名
会員外17名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、イソシギ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。24種

25名の参加者のうち、19名は会員外の皆さんで、鈴鹿市の広報(探鳥会の案内を広報に掲載)をみて近所に在中または石垣池の周辺を散策しておられる方の参加が多かった。自己紹介の後池の真ん中にあるカワウの繁殖状況、カモ類の越冬状況などを観察した。カワウは12月頃、池の水を抜いたため、一時カワウの繁殖が危ぶまれたが、抱卵中のカワウの姿をじっくり観察することが出来た。カモ類は例年より少なかったが10種みられた。全部で24種を観察することが出来た。

●宮川中流探鳥会

2008年3月6日(木) 9:30~11:30

度会町(宮リバーわたらいパーク)

小坂里香 田中伸一 参加者 12名(会員10名
会員外2名)

カイツブリ(1)、カワウ(1)、アオサギ (1)、トビ (2)、ノスリ(1)、キジ(1)、イカルチドリ(1)、キジバト(2)、イワツバメ (10)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ (2)、ヒヨドリ(2)、モズ(2)、ジョウビタキ(2)、シロハラ(1)、ツグミ(10)、ウグイス(1)、エナガ、ヤマガラ(2)、ホオジロ(5)、アオジ(4)、カワラヒワ(2)、シメ(1)、スズメ(1)、ムクドリ(10)、ハシボソガラス(3)、ハシブトガラス(1)。計27種

ツグミとシロハラ、セキレイ類 数種等実物を見た後写真で違いを確認してもらいました。セキレイ類のフィールドマークによる見分けなどのワーク、野鳥が登場する絵本を読み、聞いてもらいました。期待のヤマセミを待っている間の時間稼ぎの意味もあったのに、解散したとたん対岸にとまり2人しか見られませんでした。例年のよう

にイワツバメの越冬が確認できました。

●丹生の里探鳥会

2008年3月16日(日) 9:30~11:45

多気郡多気町丹生

小津みゆき 谷口ひろ子

参加者 18名(会員17名 会員外1名)

トビ、オオタカ、キジバト、カワセミ、アオゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス。計22種

里山の鳥を見つけながら皆でゆったりと歩きました。もう少し多く見る事が出来ると思いましたが、今ひとつ残念でした。

●海蔵川探鳥会

2008年3月18日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町海蔵川沿い

尾畑玲子 高 和義 参加者 19名(会員11名
会員外8名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、キンクロハジロ、キジ、バン、イカルチドリ、ケリ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計29種

快晴、温暖、微風という探鳥会日和であった。春休みという事もあり、高校生~8ヶ月の孫連参加も。野鳥の声も姿も美しさを増すこの時期、バンの額の赤が美しかった。北へ旅立つ準備のためツグミは腹ごしらえに余念が無い様子だ。

●木曾岬干拓地探鳥会

2008年3月23日(日) 9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者 16名

カイツブリ(1)、カワウ(20)、ダイサギ(1)、アオサギ(5)、マガモ(10)、カルガモ(40)、コガモ(100)、オカヨシガモ(100)、ハシビロガモ(50)、ミサゴ(5)、トビ(2)、ケアシノスリ(2)、ノスリ

(3)、チュウヒ(1)、キジ(15)、ケリ(15)、クサシギ(12)、タカブシギ(1)、イソシギ(3)、ユリカモメ(6)、カモメ(2)、ウミネコ(2)、キジバト(4)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、ハクセキレイ(5)、タヒバリ(1)、ヒヨドリ(6)、モズ(1)、ツグミ(10)、セッカ(1)、ホオジロ(15)、スズメ

(50)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(10)、ドバト(30)。計 37 種

ケアシノスリがまだ残っていました。ハチクマは初めて渡った夏を越冬地で過ごすことがあると聞いている。今回のケアシノスリも幼鳥が多く、このまま夏までいるのだろうか。来月が楽しみ。

しろちどり 56号の訂正

ヌートリアの学名が誤っていました。訂正をお願いします。

誤 Myogastor coypus 正 Myocastor coypus

チュウヒサミットのご案内

日時 6月21日(土)午後1時～午後5時 講演・交流会

基調講演 湿地での種の多様性(その頂点にあるチュウヒについて)

渡瀬遊水池におけるチュウヒの越冬について 平野敏明

各地からの報告 新潟・石川・三重・山口など(予定)

22日(日)午前 木曾岬干拓地でチュウヒの観察

場所 名城大学天白キャンパス 共通講義棟N205教室

名古屋市営地下鉄鶴舞線駅塩釜口／名城大学前下車1番出口より徒歩8分

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1丁目 501 番地 TEL(052)832-1151(代表)

主催 日本野鳥の会三重県支部 日本野鳥の会愛知県支部 名古屋鳥類調査会

共催 (財)日本野鳥の会 後援 名城大学野生動物問題研究会

編集部では原稿を募集しています。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail:fwwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼5 2 1

編集後記

探鳥会や調査、しろちどり編集と少しへばっています。どれも中途半端で皆さんに迷惑をかけてしまっているようです。

それでも、いろいろと係わっているといろんな人と出会いことができます。「若いときの苦勞は買ってでもしろ」といわれますが、若くはないので、「少し年を取っても、苦勞のしがいがある」と思うようにしています。

無理をしない程度にやっていきたいと思いません。ご協力をこれからもよろしくお願いします。

Y. K.

しろちどり 57号

2008年4月29日発行

題 字:濱田 稔

表紙絵:北川和則

カット:平井正志、鹿島素子

編 集:近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所:日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印 刷:東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48